

## ● 学会発表の内容

### 新しい調節卵巣刺激法 プロベラ-hMG-アゴニスト法の有効性について

医療法人社団 徐クリニックARTセンター  
中塚 愛、清須 知栄子、伊藤 真理、峰 千尋、徐 東舜

#### ■ 【目的】

調節卵巣刺激においてプロベラの併用によって、LHサージが抑制されるとの報告がいくつかある。今回、GnRH-アンタゴニストの代わりに、プロベラを併用した調節卵巣刺激法で体外受精を行ったので報告する。

#### ■ 【対象期間、対象者】

2015年12月～2016年5月までに、プロベラ-hMG-アゴニスト法（プロベラ群）を行った13症例を対象とした。比較症例として、hMG-アンタゴニスト-アゴニスト法（アンタゴニスト群）の77症例を用いた。プロベラ群、アンタゴニスト群のそれぞれの平均年齢、平均AMH値は、35.9±4.5歳 vs 35.7±4.5歳、4.9ng/ml vs 5.4ng/mlであった。

#### ■ 【方法】

プロベラ群に、hMG投与開始日からプロベラを1日4錠連日投与し、18mm以上の卵胞が3個以上発育した際に、その当日にGnRH-アゴニストを投与し、36時間後に採卵を行った。アンタゴニスト群は、卵胞14mm以上からGnRH-アゴニスト投与前日までGnRH-アンタゴニストを投与した。

#### ■ 【結果】

プロベラ群、アンタゴニスト群のそれぞれの調節卵巣刺激の結果はhMGの投与量は2203.9±481.7 mIU/ml vs 2128.2±580.1 mIU/ml、FSHの投与日数8.9±0.7日vs 8.7±1.6日、GnRH-アゴニスト投与日のホルモン値はE2 2854.0 pg/ml vs 3154.5 pg/ml、P4 0.7 ng/ml vs 0.8 ng/ml、LH 1.1 mIU/ml vs 0.7 mIU/mlとなり、いずれの値においても差を認めなかった。また、いずれの群も自然排卵した症例は認められなかった。採卵胚発育の結果については、採卵数12.8±6.5個vs 14.3±7.1個、受精率74.9% (125/167) vs 67.6% (745/1102)、胚盤胞率36.5% (61/167) vs 41.8% (461/1102) となり、いずれも差を認めなかった。

#### ■ 【結語】

- ①プロベラ、アンタゴニスト両群ともhMGの投与量を含めその他のホルモン値に差はなかった。
  - ②両群とも、その後の採卵から胚発育の成績に差は認められなかった。
- 以上より、新しい調節卵巣刺激法であるプロベラ-hMG-アゴニスト法は有効であると考える。